

高密度都市空間における景観コントロール手法と
その効果に関する研究
～韓国・ソウル市の高層集合住宅群における景観シミュレーション～

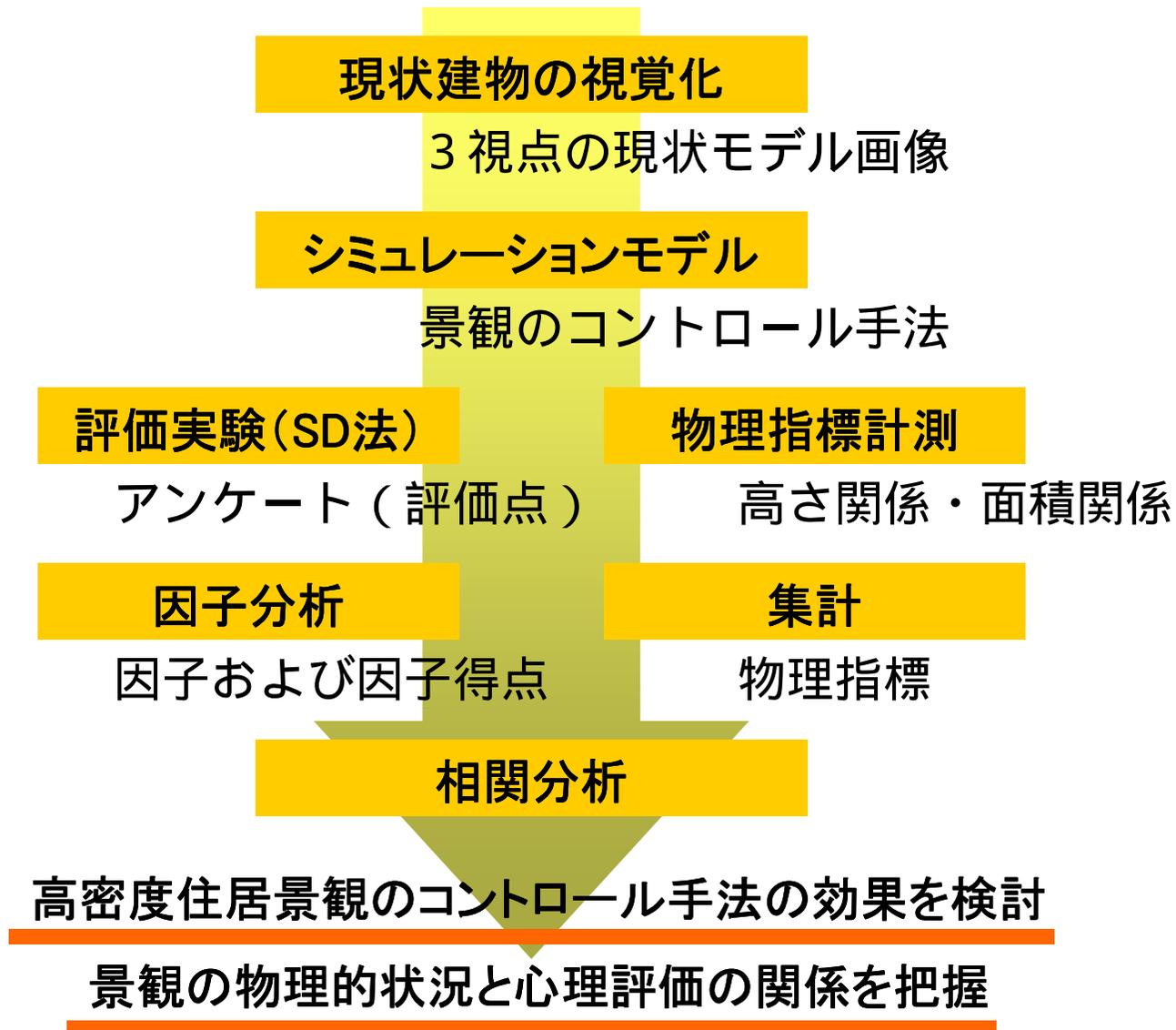
大分大学工学部建設工学科

都市計画研究室

0836049 村山 大輔

研究の目的・フロー

韓国・ソウル市の高密度住居地域(高層アパート団地)における景観について、その物理的状況を把握するとともに、これに対する評価の構造を明らかにする。



視点場の選定



視点場2



視点場3



視点場1

シミュレーションモデル

建物高さ70%モデル

現状の建物の高さを70%にしたモデル

境界距離比例モデル

建物の重心から敷地境界線までの最短距離(境界距離)に比例して建物高さが変化するモデル。

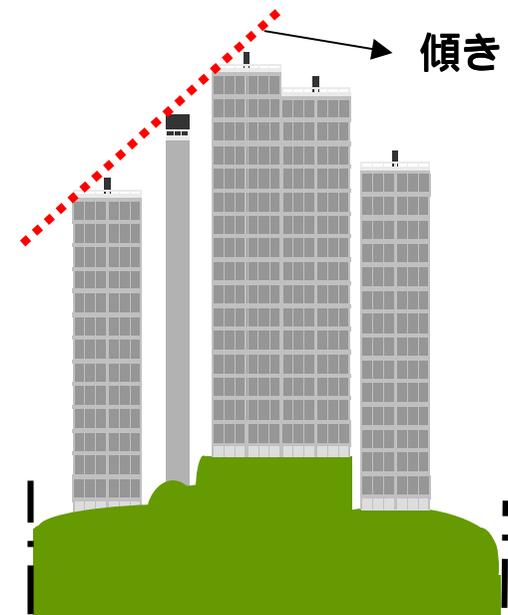
- ・境界距離比例/0.2モデル
- ・境界距離比例/0.4モデル

標高比例モデル

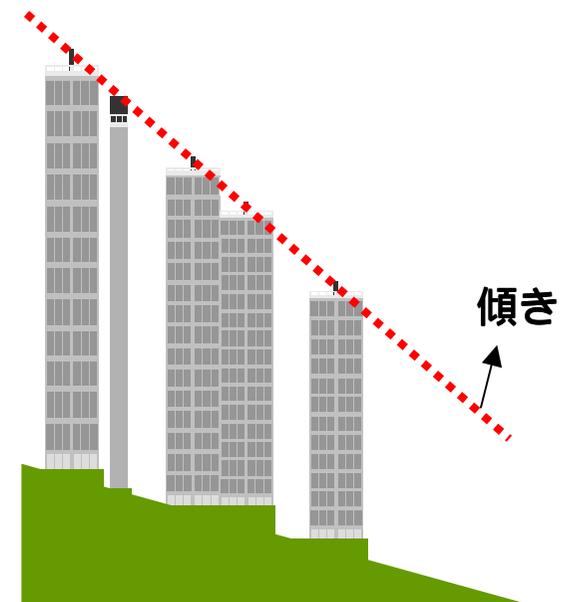
建物の重心の標高に比例して建物高さが変化するモデル。

- ・標高比例/0.3モデル
- ・標高比例/0.5モデル

容積率
固定



境界距離比例モデル



標高比例モデル

モデル画像～視点場1～



現状写真



①現状モデル



③境界距離比例/0.2モデル



⑤標高比例/0.3モデル



②高さ70%モデル



④境界距離比例/0.4モデル



⑥標高比例/0.5モデル

因子分析

・因子負荷行列

形容詞対	因子			共通性
	1	2	3	
暖かい - 冷たい	0.749	0.093	0.020	0.570
開放的な - 閉鎖的な	0.744	-0.010	0.100	0.563
魅力的な - 魅力的でない	0.668	0.298	0.285	0.617
かたい - やわらかい	-0.664	0.233	0.260	0.563
潤いのある - 潤いのない	0.616	0.111	0.265	0.462
軽快な - 重厚な	0.599	-0.161	0.021	0.386
動的な - 静的な	0.570	0.245	-0.178	0.417
圧迫感のある - 圧迫感のない	-0.526	0.516	0.049	0.546
奥行きのある - 奥行きのない	0.385	0.208	0.142	0.212
平面的な - 立体的な	-0.278	-0.203	-0.064	0.122
存在感のある - 存在感のない	-0.044	0.666	0.307	0.540
大胆な - 繊細な	-0.061	0.627	0.017	0.397
派手な - 地味な	0.332	0.593	0.102	0.472
特徴のある - 特徴のない	0.296	0.564	0.132	0.424
高密な - 低密な	-0.096	0.536	0.097	0.306
複雑な - 単調な	0.125	0.504	-0.116	0.283
にぎやかな - さびしい	0.413	0.463	0.018	0.385
清潔な - 不潔な	0.111	0.172	0.694	0.523
落ち着きのある - 落ち着きのない	0.236	-0.146	0.657	0.509
整然とした - 雑然とした	-0.111	0.173	0.612	0.417
固有値	4.048	2.945	1.721	
寄与率(%)	20.24	14.72	8.61	
累積寄与率(%)	20.24	34.96	43.57	

好感度因

空間の雰囲気来形容

印象度因

造形的な印象の強さを形容

秩序性因

景観要素のリズム感・バランス来形容

総合評価「好ましい-好ましくない」と
各因子の因子得点との相関

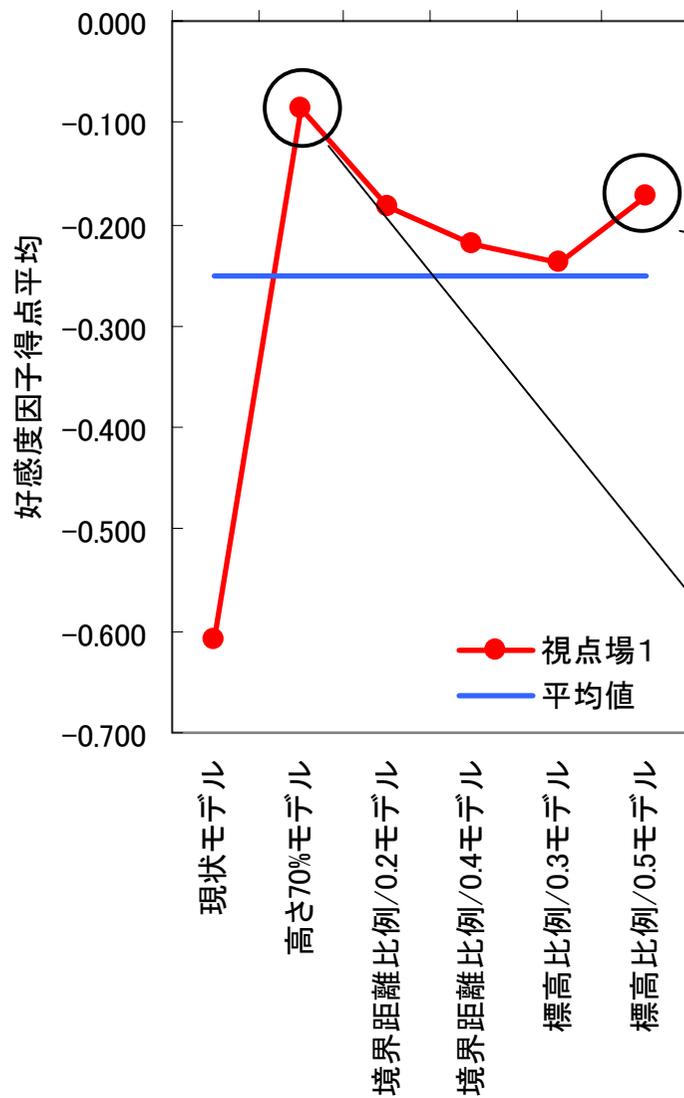
好感度因子: 0.641

印象度因子: 0.116

秩序性因子: 0.304

因子得点～好感度因子～

・各画像の因子得点平均



視点場1

視点1：標高比例/変化量0.5モデル

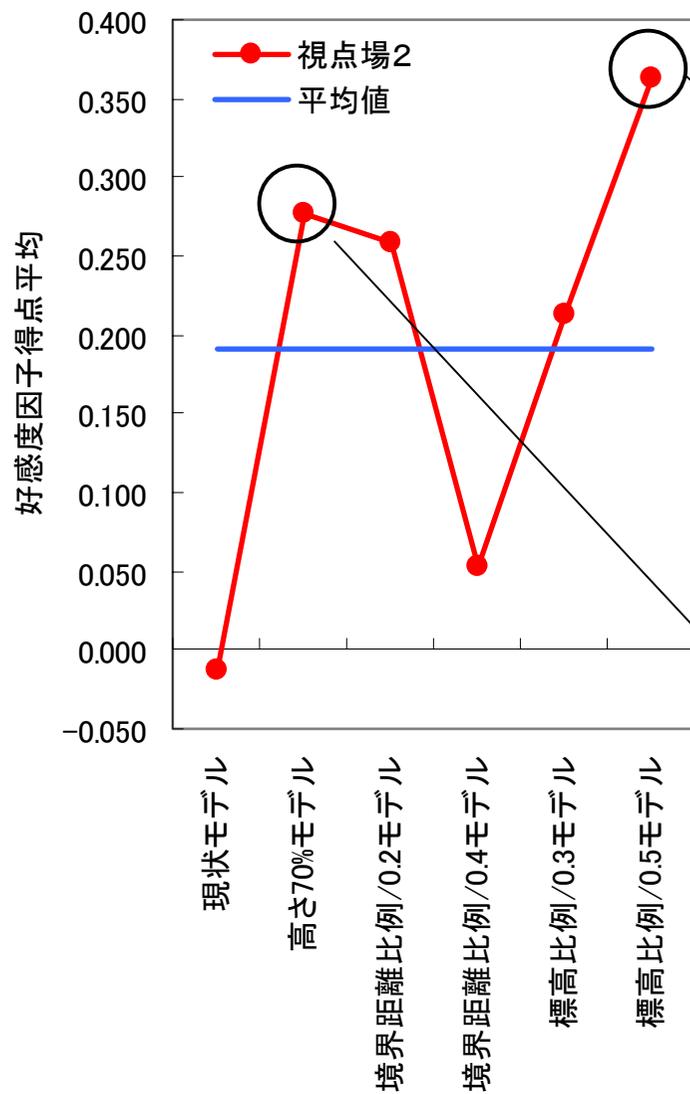


視点1：高さ70%モデル



因子得点～好感度因子～

・各画像の因子得点平均



視点場2

視点2：標高比例/変化量0.5モデル



視点2：高さ70%モデル



総括

- ・景観コントロール手法として、以下5つの方法を提案
 - 1.高さ70%モデル
 - 2.境界距離比例/0.2モデル
 - 3.境界距離比例/0.4モデル
 - 4.標高比例/0.3モデル
 - 5.標高比例/0.5モデル
- ・SD法による評価実験により好感度因子、印象度因子、秩序性因子の3因子を抽出した
- ・総合評価との相関が最も高いのは、好感度因子である
- ・好感度は高さ70%モデル、標高比例/0.5モデルが高い
- ・印象度は境界距離比例/0.4モデルが高い
- ・秩序性は標高比例/0.3モデルが高い
- ・好感度を上げるには高さ70%モデルの適用が最も効果的である。
- ・必要容積率の固定を前提とした場合、標高比例0.5モデルの適用が効果的である